



2022年7月14日

各 位

会 社 名 株式会社テーオーホールディングス
代表者名 代表取締役社長 小 笠 原 康 正
(コード番号：9812 東証スタンダード市場)
問合せ先
役職・氏名 取締役副社長 内 山 敦 志
TEL 0138-45-3911

営業外収益（受取保険金）・営業外費用（持分法による投資損失）・特別損失
（減損損失）の計上、及び業績予想値と実績値の差異並びに
2022年5月期通期連結業績と前期実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2022年5月期におきまして、下記のとおり営業外収益（受取保険金）・営業外費用（持分法による投資損失）・特別損失（減損損失）を計上いたしました。また、2021年7月15日に公表しました業績予想値の実績値の差異を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（受取保険金）の計上について

当社の保有する賃貸不動産において、雪害の影響により建物の一部が破損したことに伴う76百万円などにより、「受取保険金」93百万円を営業外収益に計上いたしました。

2. 営業外費用（持分法による投資損失）の計上について

当社の持分法適用会社である株式会社テーオーフローリングの決算報告等に基づき、2022年5月期の連結期間において、持分法による投資損失144百万円を営業外費用に計上いたしました。

3. 特別損失（減損損失）の計上について

当社の保有する固定資産について、減損の兆候が見られた物件に対し「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき再評価した結果、減損損失27百万円を特別損失に計上いたしました。

4. 業績予想値と実数値の差異について

(1) 2022年5月期通期連結業績予想数値の修正(2021年6月1日~2022年5月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|------------------------|---------------|------------|----------|-------------------------|----------------|
| 前回予想(A) | 百万円 31,000 | 百万円 160 | 百万円 - | 百万円 - | 円 銭 - |
| 今回修正(B) | 27,702 | 163 | 22 | △28 | △4.41 |
| 増減額(B-A) | △3,297 | 3 | 22 | △28 | - |
| 増減率(%) | △10.6 | 2.3 | - | - | - |
| (参考)前期実績 (2021年5月期) | 30,859 | 120 | △89 | 123 | 19.24 |

(2) 修正の理由

当期の売上高につきましては、収益認識に関する会計基準等の適用による影響のほか、主に流通事業において、新型コロナウイルス感染症拡大によるまん延防止等重点措置により来店者が減少したことに伴う収入減のほか、当連結会計年度において連結子会社の株式会社テーオーフォレストが住宅事業を縮小したこと、連結子会社の株式会社テーオー総合サービスが運営するスポーツクラブ事業を2022年1月1日に「JOYFIT」「FIT365」を運営する株式会社オカモトに譲渡したことなどにより、当初予想を下回る結果となりました。

営業利益については、全社的な固定経費の削減効果のほか、木材事業における世界的な需給逼迫による価格高騰に伴い、保有在庫の販売による利益率の上昇などにより、ほぼ当初予想の結果となりました。

5. 2022年5月期通期連結業績と前期実績値の差異について

(1) 2022年5月期通期連結業績と前期実績値との差異(2021年6月1日~2022年5月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|---------------|------------|------------|-------------------------|----------------|
| 前期連結実績(A) | 百万円 30,859 | 百万円 120 | 百万円 △89 | 百万円 123 | 円 銭 19.24 |
| 当期連結実績(B) | 27,702 | 163 | 22 | △28 | △4.41 |
| 増減額(B-A) | △3,156 | 43 | 112 | △151 | - |
| 増減率(%) | △10.2 | 35.6 | - | - | - |

(2) 差異の理由

2022年5月期の連結業績予想につきましては、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純

利益に関しては、新型コロナウイルス感染症の収束が不透明であり、合理的な予想が困難な状況と判断し未定としておりました。

経常利益につきましては、上記「2. 営業外費用（持分法による投資損失）」の計上が144百万円あったものの、上記「1. 営業外収益（受取保険金）」の計上が93百万円あったことなどにより、前年実績を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記「3. 特別損失（減損損失）」が27百万円、及び2022年3月9日に公表しました「(開示事項の経過) 和解による訴訟の解決および特別損失の発生に関するお知らせ」による損失が15百万円あったことなどにより、前年を下回る結果となりました。

以上